参考資料

社会的ニーズに応じた高校，学科の在り方

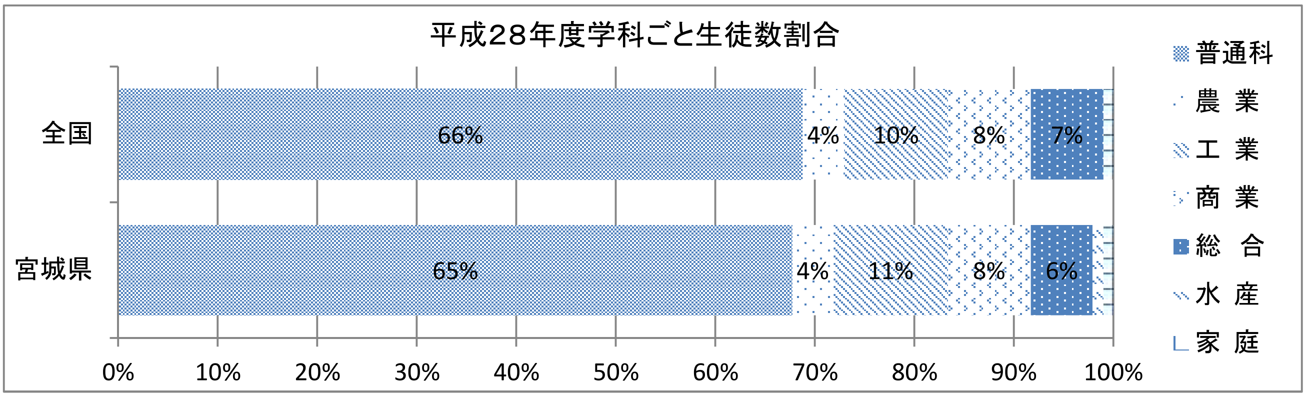
資料４－(1)に関する検討資料

平成３０年１月

宮城県教育庁教育企画室

普通系学科について

○ 普通教科・科目を主に学習する学科。一般的に必要とされる教養を，幅広く身につけ高めることを目標としている。
○ 学年ごとに課程終了の認定がなされてから次学年に進級する「学年制」と，学年による教育課程の区分を設けず一定期間在学し，必要な単位取得により卒業できる「単位制」がある。
○ 普通教育をより高度に拡充させた専門教育を行う学科として，理数科，英語科，体育科，美術科などがある。
○ 県内全学科の６５％が普通系学科所属生徒である。



（学校基本調査より）

主な制度改革

昭和６３年　単位制高等学校の導入（定時制・通信制）
平成　５年　単位制高等学校の全日制への拡大，学校間連携，学校外学修の単位認定の導入
平成１０年　学校外学修の単位認定対象範囲の拡大
平成１１年　中高一貫教育制度の導入
平成１７年　学校外学修等の認定可能単位数の拡大（２０→３６単位）
平成２２年　外国の高等学校における履修に関する認定可能単位数の拡大（３０単位→３６単位）
（平成３２年）大学入試改革　学力の３要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

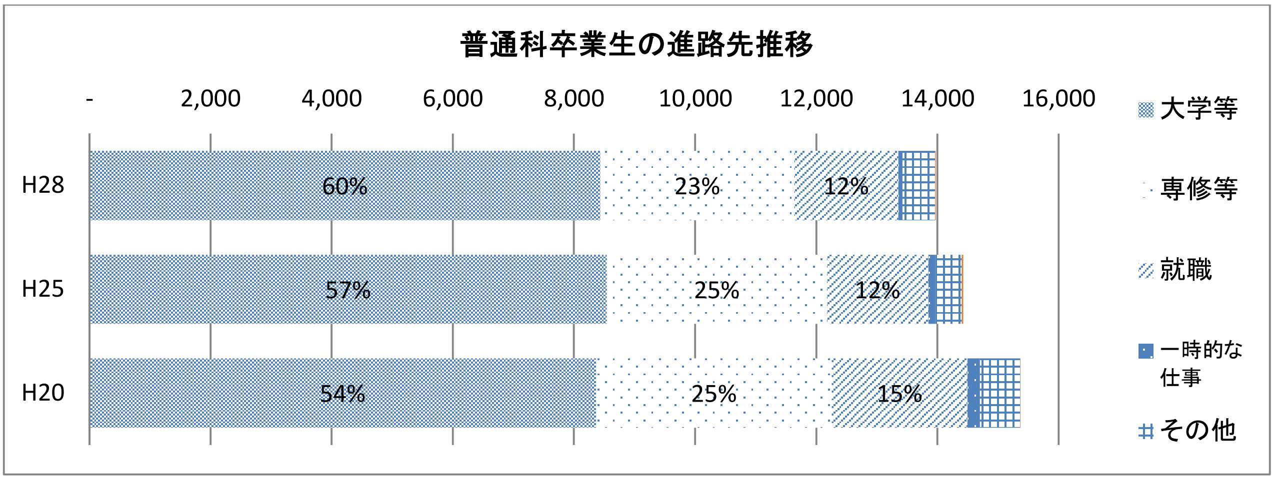
１　普通系学科　　【４８学校　５７学科　定員９，６００人　２４０クラス】

地　区	３０年度の募集定員等		後期選抜出願倍率			充足率		
	定員	クラス	27	28	29	27	28	29
南部地区	680	17	0.9	1.1	0.8	86%	93%	89%
中部南地区	2,480	62	1.4	1.4	1.4	99%	100%	100%
中部北地区	3,800	95	1.6	1.5	1.5	100%	100%	100%
大崎地区	960	24	0.7	0.8	0.8	87%	85%	83%
登米地区	360	9	0.9	1.2	0.9	91%	100%	92%
栗原地区	280	7	0.6	0.7	0.6	78%	77%	75%

地　　区	３０年度の募集定員等		後期選抜出願倍率			充足率		
	定員	クラス	27	28	29	27	28	29
石巻地区	800	20	1.0	0.8	1.0	98%	89%	96%
本吉地区	320	8	0.6	0.7	0.9	89%	89%	91%
県全体	9,600	240	1.2	1.2	1.2	95%	95%	95%

○ 県内全日制公立高校（７１校）の約６８％が普通科設置校である。
○ ３７学科で３年連続充足率１００％となっている。
○ 平成２９年度は４５学科で充足率１００％である。
○ 単位制は７校で導入している。
○ 体育系の学科は２校，理数科は２校，英語科は２校，美術科は１校の設置となっている。
○ 県立高校のコース制は他都道府県と比べて少なく，全国的には体育コース・音楽コース・美術コース・福祉コース・情報コース・理数コース・国際コースなど多様なコースがある。

２　進路状況



（平成 28 年度宮城県学校基本調査（宮城県値）より）

○ 卒業者の大学・短大等へ進学する割合は５割を超えている一方で，就職希望者も１割を超えている。
○ 卒業生数が減っている中，大学等の進学者数はほぼ横ばいであることから，割合としては高まっている。

３　「県立高校に関する調査」の結果

Ｑ３　あなたはどの学校段階まで進学したいですか。（高校生学科別）

(参考)高校生の主な課程学科別の進学等の希望

	全日普通科		全日専門学科		総合学科		定時･通信		合計	
①高校まで	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
②高等専門学校まで	4	0.7%	14	2.4%	2	2.0%	2	1.4%	22	1.5%
③専門学校まで	88	14.7%	114	19.8%	32	32.0%	25	17.5%	259	18.2%
④短大まで	18	3.0%	19	3.3%	3	3.0%	1	0.7%	41	2.9%
⑤大学まで	341	56.8%	148	25.6%	7	7.0%	13	9.1%	509	35.8%
⑥大学院まで	19	3.2%	26	4.5%	0	0.0%	2	1.4%	47	3.3%
⑦進学はしない	87	14.5%	173	30.0%	41	41.0%	51	35.7%	352	24.8%
⑧わからない/決めていない	43	7.2%	83	14.4%	15	15.0%	49	34.3%	190	13.4%
計	600	100.0%	577	100.0%	100	100.0%	143	100.0%	1,420	100.0%

Ｑ１０　県立高校での学習について，今後どのようなことを期待しますか。（高校生学科別）

	全日普通科		全日専門学科		総合学科		定時・通信		合計	
①就職に役立つ知識や技術に関する学び	369	22.3%	264	28.9%	65	32.0%	85	31.3%	783	25.7%
②大学受験に必要な学び	360	21.7%	66	7.2%	17	8.4%	21	7.7%	464	15.2%
③基礎学力の向上につながる学び	308	18.6%	159	17.4%	34	16.7%	56	20.6%	557	18.3%
④地域づくりなど地域の活性化につながる学び	59	3.6%	42	4.6%	8	3.9%	12	4.4%	121	4.0%
⑤世界で活躍できる人材育成につながる学び	84	5.1%	38	4.2%	7	3.4%	10	3.7%	139	4.6%
⑥パソコンやタブレットなど情報機器を使用した学び	159	9.6%	130	14.2%	26	12.8%	40	14.7%	355	11.7%
⑦実験や実習活動など実践的な学び	107	6.5%	102	11.2%	20	9.9%	24	8.8%	253	8.3%
⑧海外研修を取り入れた学び	127	7.7%	65	7.1%	16	7.9%	4	1.5%	212	7.0%
⑨企業研修を取り入れた学び	64	3.9%	30	3.3%	9	4.4%	14	5.1%	117	3.8%
⑩その他	20	1.2%	17	1.9%	1	0.5%	6	2.2%	44	1.4%
⑪わからない		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
計	1,657	100.0%	913	100.0%	203	100.0%	272	100.0%	3045	100.0%

○ 普通科所属高校生の 56.8%が大学まで進学したいと考えている。専門学校（14.7%），大学院（3.2%），短大（3.0%）と合わせると 77.7%である。「大学まで」の割合は他学科と比べて圧倒的に高い。

○ 普通科所属高校生の 22.3%が就職に役立つ学びを期待している。大学受験に必要な学び(21.7%)，基礎学力の向上(18.6%)，情報機器を使用した学び(9.6%)と続く。「大学受験に必要な学び」の割合は他学科と比べて圧倒的に高い。

○ 前回，今回調査ともに，中学生，高校生，中学生保護者，高校生保護者において，学科選択率が 1 位である。

○ 中学保護者で「普通科」の学科選択率が 59.9％から 89.6％に増加

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

茨城県 H21.7	・探究的な学習を推進　・キャリア教育の推進　・コースの在り方について検討
神奈川県 H28.1	・専門コースでのこれまでの成果を学校全体の特色とする改編 ・専門コースでの取組をいかし，専門学科への改編
愛知県	・時代の変化と生徒のニーズを踏まえ，改廃。 ・地域と結びついた教育活動
広島県	・コースについては特質が発揮しにくくなった場合は廃止を含めた見直し ・大学や関係機関等と連携した実践的，体験的な活動 ・知識技能を活用する学習や探究する学習の重視
山口県 H27.3	・探究科への改編検討 ・ＳＧＨ，ＳＳＨ，ユネスコスクールなどの活用
長崎県	・コースについて，必要に応じ見直し ・単位制高等学校などの教育システムの拡大 ・体育・芸術など特色あるコース・類型の慎重検討

（特色ある取組概要）

北海道 富良野高校	・教育課程の特色　生徒の自己表現力やコミュニケーション能力を育成するための学校設定教科「表現」の開設による演劇に関する学習を柱とした「表現教育」の実施 ・特色ある学校設定科目　「富良野と演劇」「舞台創作」「身体表現 AB」「ミュージカル基礎」 ・特色ある教育活動　インターンシップの全員実施や社会人・大学生と直接触れ合うガイダンス・懇談会など，体験的キャリア教育の推進
青森県 弘前南高校	・１年次では必履修科目を中心に学習。２年次からは個々の生徒の進路希望，興味・関心，能力・適性に応じた教科・科目の選択が可能な教育課程を編成している ・徹底的に基礎力を鍛えるとともに，習熟度別授業やグループ別授業，進学

	講習，学習会等を少人数で実施することにより応用力を伸ばし，進路実現を図っている ・県内外の研究施設と連携を図りながら，学校独自で科学教育推進計画を策定。科学技術に関する興味・関心や理工系大学進学希望者の資質・能力を高める取組を実施するなど，科学教育を核としたグローカル教育を推進している
埼玉県 上尾鷹の台高校	・不登校傾向の生徒でも学び続けられるよう，「個別学習支援システム」を構築 ・学校設定教科「ベーシック」において国語，数学，英語などの基本の学び直しを徹底
千葉県 長生高校	地域の企業，小中学校との連携や大学との接続を推進し，地域社会と協働しながら，生徒の学びの世界を広げ，問題解決能力やコミュニケーション能力等に秀でた次世代の人材を育成している ・SSH*（スーパーサイエンスハイスクール）　・企業との連携プログラム　・大学との接続　・海外校での研究発表
兵庫県 三田祥雲館高校	・「探究入門」「探究基礎」「ｾﾞﾐⅠ」「ｾﾞﾐⅡ」等，探究的な学習活動の展開 ・問題解決的学習の積極的な導入 ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄやﾌｫｰﾗﾑ等で自分の意見･考えを表現できる能力の育成 ・大学･研究機関等との連携・英語･数学における少人数授業の実践
佐賀県 太良高校	・地域と連携した体験学習など，多様な学びができ，地域も生徒の教育を支援 ・生徒に確かな学力を身に付けさせるため，ICT 教育とユニバーサルデザイン化された教育環境を推進
千葉市 千葉高校	・進路ニーズに合わせた多彩な選択科目（３年次最大１８単位選択科目） ・学習の深化を図る「総合古典」「探究数学」「英語研究」などの学校設定科目の設置 ・千葉大での講義受講を学校外学修の単位として認定 ・古典の授業で月の満ち欠けについて理科教員が解説するなどのクロスオーバーカリキュラムを展開 ・外国人理科実習助手による理科授業内での英語による解説，生徒の英語による研究発表への指導 ・言語活動充実のため多様な生徒研究発表機会を設定
神戸市 六甲アイランド高校	・課題研究：興味ある課題の研究活動を通して，探求の精神や問題解決能力等を養う ・知識の統合：理科や数学で学んだことを他教科との関わりにも発展させ，授業や行事で展開 ・新たなカリキュラムの開発：世界に通用する技術者･科学者の卵を育成するために「理科英語」「スペシャルサイエンス」の開発

SSH・・・文部科学省より指定を受けた学校において，科学技術系人材の育成のため，各学校で作成した計画に基づき，独自のカリキュラムによる授業や，大学・研究機関などとの連携，地域の特色を生かした課題研究などを行う事業のこと。

総合学科について

○ 普通教育と専門教育を総合的に施す学科。各教科・科目は選択履修とされ，両方を選択できる。
○ 平成７年度から設置された学科である。
○ 将来の職業選択を視野に入れた進路への自覚を深める学習や個性に応じた主体的な学習を重視したカリキュラムが特徴である。

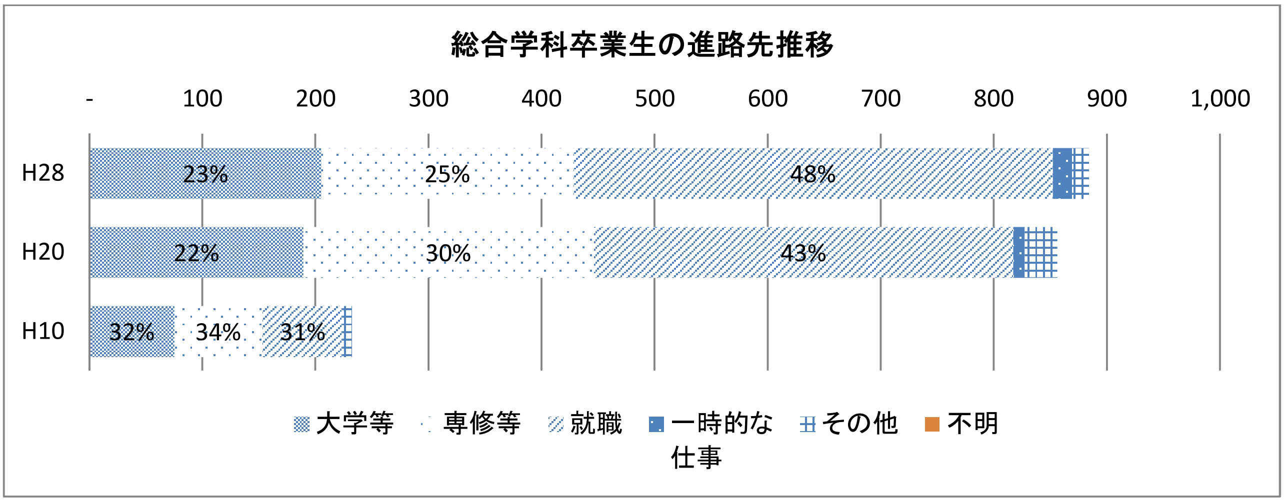
系列	内容	学科
1 人文科学系列	国公私立文科系大学への進学希望の実現を目指す。国語・地歴・英語などの科目を選択し学習する。	人文社会 人文国際 進学教養
2 自然科学系列	国公私立の理科系大学への進学希望の実現を目指す。理科・数学などの科目を多く選択し学習する。	自然科学 理数情報
3 情報系学科	コンピュータに関する知識と技能を習得し，情報関連の進路希望の実現を目指す。	情報 情報ビジネス 情報科学 産業情報
4 商業系列	商品の流通に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し，ビジネスの意義や役割について理解するとともに流通管理等を学習する。	商業実践
5 農業・環境系列	農業について生産から販売までを総合的に学習し，農業関連の進路希望の実現を目指す。	農学 アグリビジネス 人間環境
6 工業系列	自動車整備や土木・測量の技術を習得するとともに身に付けた技術をいかした進路の実現を目指す。	自動車 機械 エンジニアリング
7 福祉系列	福祉関係の知識と技能の習得及び上級学校への進路希望の実現を目指す。福祉に関する科目を多く選択し学習する。	介護福祉 福祉 健康福祉 福祉教養
8 美術やデザイン，家庭科系列	生活文化や芸術に関するセンスをいかして創造活動を行う。	美術 生活表現

（「平成２９年度宮城県公立高校ガイドブック」より作成）

1　総合学科　　【７高校・７学科・定員９６０人・２４クラス】

学校名		３０年度のクラス数等		後期選抜出願倍率			充足率		
		系列	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
南部	村田	普通・工業・商業・福祉	3	0.82	1.01	0.75	97.9%	100%	93.4%
南部	伊具	農学・機械・情報・福祉	3	0.92	0.68	0.65	90.9%	76.7%	78.4%
中部北	宮城野	人文・理数・美術	2	1.34	1.29	1.49	100%	100%	100%
中部南	－								
大崎	小牛田農林	自然科学・人文社会・情報ビジネス・健康福祉	3	1.29	1.17	1.04	100%	100%	100%
栗原	迫桜	人文国際・自然科学・福祉教養・情報科学・エンジニアリング・アグリビジネス	5	0.86	0.82	1.13	91.5%	94.5%	100%
登米	－								
石巻	石巻北	食農・家庭・経情・教養・進学	5	1.55	0.77	1.13	100%	87.0%	100%
本吉	本吉響	進学教養・産業情報・人間環境・生活表現	3	0.83	0.86	0.86	85.0%	89.2%	89.2%

２　進路状況



（平成２８年度学校基本調査（宮城県値）より）

○ 卒業者の約５割が大学・専修各種学校等へ進学している。
○ 大学・専門学校等への進学は看護科を除き，普通科高校についで高い。
○ 総合学科全体としては，多様な進路希望が混在している。その中でも就職の割合が増加している。
○ 大学進学型，大学・専修各種学校進学型，進学・就職型，就職型の４つの型がある。

３　「県立高校に関する調査」の結果

問９　どのような学科で学びたいか（中学生・保護者），学び直したいか（高校生），どのような学科の充実が必要か（高校生保護者）

	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	16.7%	3位	5.4%	13位	11.8%	6位	17.8%	6位
前回調査	8.5%	2位	10.1%	3位	18.5%	2位	17.9%	2位

今回調査：平成２９年９月実施，前回調査：平成２０年１１月実施

＊前回調査は１つ選択であったが，今回調査は３つまで選択可としたため前回と今回を単純比較できるよう，上の表においては今回調査の母集団を実人数として計算した。学科選択肢数は今回が１６学科，前回が１３学科である。

○ 中学生の総合学科に対する関心は，相変わらず高い
○ 一方で，高校生の場合は前回調査から大きく下がった。（今回の調査では１人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。）
○ 保護者の場合も前回調査から下がった。

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

岩手県 H28.3	生徒数の減少により，学校の規模の維持が困難な場合には，学科の見直しも視野にその方向性を検討
秋田県 H28.3	・ガイダンスの充実と指導の徹底 ・社会の変化やニーズを踏まえた系列のあり方について検討
山形県 H26.11	・「産業社会と人間」の学習を通して，自己の進路について自覚が深まるなどの成果 ・自己の将来の生き方や職業選択を視野に入れたキャリア教育の一層の推進
富山県 H28.4	全日制の定員に占める割合が高くなっていることや，普通系学科に対するニーズが高いことなどを踏まえ，その割合を見直す
静岡県	・今後も将来の職業選択を視野に入れた自己の進路の自覚を深めさせる学習及びガイダンス機能の一層の充実・改善を図る ・時代の変化や社会のニーズに対応した系列（教育内容）の見直しを行う
高知県 H26.11	学校によって複数の系列を置くことが困難な場合には，生徒数や地域の状況を踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討

専門学科（農業）について

○ 農業関連産業や地域産業に従事するために必要な基礎的知識や技術を，実験や実習を多く取り入れながら学習

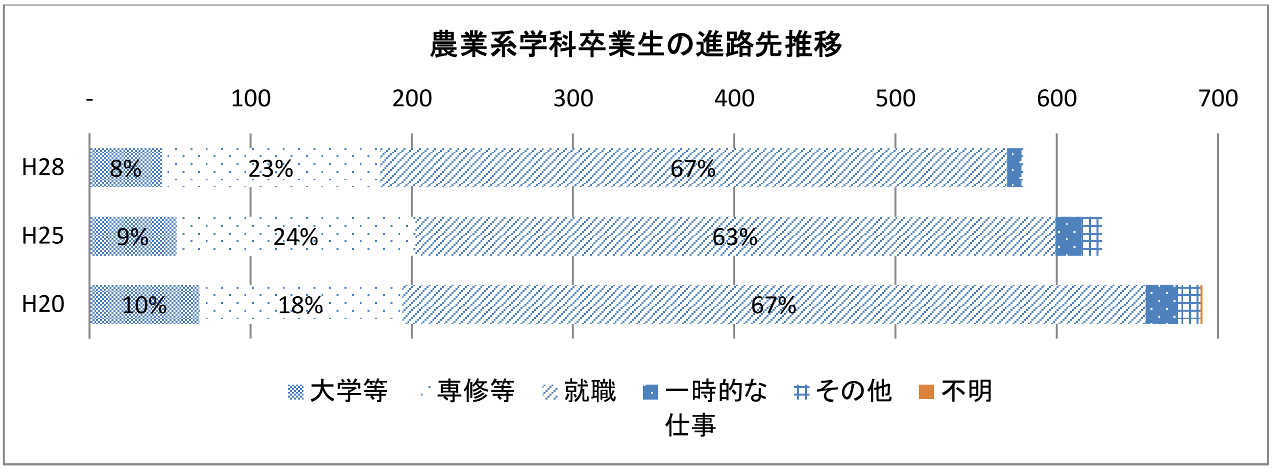
1 農業系学科		4 生活系学科	
農産物の生産・栽培環境・農業経営を主に学習する。	農業科 動物科学科 食農科学科	農業をベースにした家庭生活に関して学習する。	生活科 生活技術科
2 食品化学系学科		**5 農業技術科の農業土木コース**	
食品の加工，分析や食品衛生について学習する。	食品化学科	農地の管理や改良，保全に関して学習する。	
3 農業機械系学科			
農業機械の整備，運転を主に学習する。	農業機械科		

（「平成２９年度宮城県公立高校ガイドブック」より作成）

1　農業に関する学科　　　【７学校・１６学科・定員７２０人・１８クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科・コース	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
南部	柴田農林	食農科学科・動物科学科　［一括募集］	80	2	1.23	1.04	0.88	100%	98.8%	91.3%
		森林環境科・園芸工学科　［一括募集］	80	2	1.25	1.06	1.29	100%	98.8%	100%
中部南	亘理	食品化学科	40	1	0.93	1.24	1.18	100%	100%	100%
	宮城農業	農業科・園芸科［一括募集］	120	3	1.46	1.26	1.76	100%	100%	100%
		農業機械科	40	1	1.67	1.71	1.13	100%	100%	100%
		食品化学科	40	1	1.38	1.58	1.63	100%	100%	100%
		生活科	40	1	0.75	1.50	1.46	100%	100%	100%
中部北	-									
大崎	加美農	農業科	40	1	0.75	0.27	0.56	80.0%	55.0%	62.5%
		農業機械科	40	1	0.46	0.70	0.67	72.5%	80.0%	85.0%
		生活技術科	40	1	0.25	0.22	0.44	57.5%	50.0%	57.5%
	小牛田農林	農業技術科・農業科学コース	40	1	1.46	1.33	1.08	100%	100%	100%
		農業技術科・農業土木コース	40	1	1.38	1.96	1.17	100%	100%	100%
	南郷	産業技術科	40	1	0.69	0.94	0.90	90.0%	87.5%	90.0%
栗原	－									
登米	登米総合	農業科	40	1	1.24	1.10	1.09	100%	97.5%	90.0%
石巻	－									
本吉	－									

２　進路状況



（平成 28 年度学校基本調査（宮城県値）より）

○ 卒業者の約６割が就職しており，大学・専修専門学校等への進学は，全体の約３割にとどまっている。

３　「県立高校に関する調査」の結果

問９　どのような学科で学びたいか（中学生・保護者），学び直したいか（高校生），どのような学科の充実が必要か（高校生保護者）

	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	6.2%	10 位	8.5%	10 位	3.0%	11 位	13.1%	8 位
前回調査	1.3%	8 位	2.8%	6 位	0.9%	8 位	2.3%	8 位

今回調査：平成２９年９月実施，前回調査：平成２０年１１月実施

＊前回調査は１つ選択であったが，今回調査は３つまで選択可としたため前回と今回を単純比較できるよう，上の表においては今回調査の母集団を実人数として計算した。学科選択肢数は今回が１６学科，前回が１３学科である。

○ 中学生，高校生，中学生保護者において，前回調査から順位が下がった。（今回の調査では １ 人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。）

○ 高校生保護者の順位は同じであった。

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

岩手県 H28.3	・農業に関する専門教育の充実 ・卒業後の進路を見据えた学科改編
茨城県 H21.7	農業県として，地域の農業との連携を一層強化し，県内各地域の農業の特色に応じた担い手を育成
神奈川県 H28.1	・６次産業化の進展への対応や先進的な農業技術の習得などを図るため，農業にかかる教育機関や企業などとの連携の推進 ・社会状況の変化も踏まえながら，学科や教育課程の改編
静岡県	・６次産業化やグローバル化に対応した教育内容の充実 ・地域の特性を生かした商品開発
島根県 H21.2	・基礎的・基本的な教育に重点 ・インターンシップや専門性を生かした資格取得，各種コンテストへの参加 ・進学対応など，進路希望に応じて教育課程を工夫
山口県 H27.3	・基礎的・基本的な知識と技術の習得 ・６次産業化など新しい取組にチャレンジできる人材の育成 ・地域社会や産業界，大学，研究機関と連携したプロジェクト学習 ・地域活性化を支援する取組

（教育活動概要）

北海道 ニセコ高校緑地観光科	農業インターンシップ 余市町のトマト農家と連携して，２年次における農業コース・インターンシップを泊まり込みで８日間実施し，職業人としての能力を高めている。
青森県 五所川原農林高校	GAP*認証 への取組 全校から手を挙げた１７名による認証取得，Ｈ２７はりんご，H２８はりんご（２年目）と米１を取得。今後，学習内容に社会的なニーズの高い GLOBAL GAP (Good Agricultural Practice) を盛り込む予定
群馬県 勢多農林高校	SPH*事業の取り組み 今年度より SPH(スーパープロフェッショナルハイスクール)事業がスタート。研究開発課題は，「勢農ブランド確立へ挑戦する。未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発～ 地方創生や成長産業としての農業 を担うための資質・能力の育成 ～」として研究する。
京都府 桂高校 園芸ビジネス科・植物クリエイト科	桂高校の課題研究授業は，TAFS (Training in Agriculture for Future Science) と呼ばれ１２のゼミ研究室で構成されている。TAFS は，学年 (2 年・3 年) 学科をまたがり，各研究室最大１６名が参加し，授業は同時開講されている。TAFS は SSH 指定の根幹であり，企業や大学と連携して多くの成果を残している。
広島県 西条農業高校 畜産科	西農ポークの開発 酒所西条において，地域の清酒製造の副産物である酒粕を飼料とし，放牧飼育を行って，高品質の豚肉を生産してブランド化に取り組む。

GAP（農業生産工程管理）・・・農業において，食品安全，環境保全，労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと。

SPH・・・社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、先進的な卓越した取組を行う専門高校を文部科学省が指定して研究開発を行う事業のこと。

専門学科（工業）について

○　将来のスペシャリストとして必要な専門の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指している。
○　産業界からのニーズに応えられる科目を取り入れ，多様な選択制を導入している。
○　ものづくりに関する知識や技術を生かし，各種大会に出場したり，多くの資格を取得したりしている。

系学科	内容	学科
1 機械科系学科	機械に関する基本的な知識と技術を習得し，技術革新に対応できる柔軟な能力と実践的な態度を育て，機械に関連する諸分野の業務に従事する技術者を育成する。	機械科 機械技術科 電子機械科
2　電気系学科	電気・電子に関する基礎的な知識と技術を習得し，電気・電子機器製造，電気事業の管理・運用・保守・技術サービスなどの業務に従事する技術者を育成する。	電気科 電気電子科 電気情報科 電子機械科 電気電子科
3　情報系学科	電子・通信及び情報工学の基礎となるコンピュータの装置やネットワーク技術，プログラミング言語活用を中心とした情報技術について学習する。	情報技術科 電気情報科
4　建築系学科	建築物の設計・建築について，基礎的・基本的な知識や技術・技能を実験・実習の体験的な学習をとおして，建築に関する確かな知識と技術を習得する。	建築科 インテリア科 設備工業科
5　土木系学科	社会基盤の整備を行うために必要となる土木技術について学習する。	土木科 土木情報科 土木システム科
6　化学系学科	化学工業に関する諸分野の基礎的・基本的な知識と技術について，実験をとおして体験的に学習する。	化学技術科 化学工業科 工業化学科

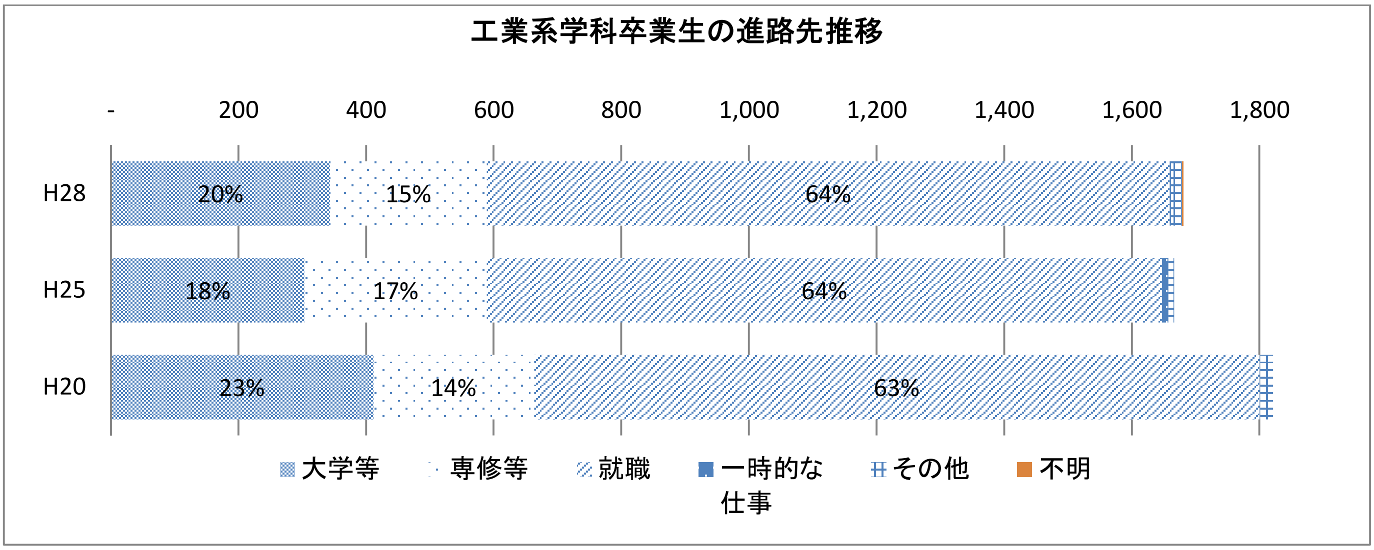
（「平成２９年度宮城県公立高校ガイドブック」より作成）

１　工業に関する学科　　【８学校　３２学科　定員１，５６０人　３９クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科・コース	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
南部	白石工業	機械科	80	2	0.81	1.02	1.08	92.5%	100%	100%
		電気科	40	1	0.38	0.50	1.08	80.0%	82.5%	100%
		工業化学科	40	1	0.83	1.58	1.08	100%	100%	100%
		建築科	40	1	1.29	0.88	1.50	100%	95.0%	100%
		設備工業科	40	1	1.33	1.79	1.75	100%	100%	100%
中部南	宮城工	機械科	80	2	1.42	1.54	1.27	100%	100%	100%
		電子機械科	40	1	2.33	1.42	0.96	100%	100%	95.0%
		電気科	80	2	1.46	1.17	1.47	100%	100%	100%
		情報技術科	40	1	1.79	1.96	1.42	100%	100%	100%
		化学工業科	40	1	1.79	1.92	1.42	100%	100%	100%
		インテリア科	40	1	1.71	1.88	2.42	100%	100%	100%
	市仙台工	建築科	30	1	1.76	2.00	2.44	100%	100%	100%
		機械科	70	2	1.82	2.10	1.76	100%	100%	100%
		電気科	70	2	2.14	1.90	1.56	100%	100%	100%
		土木科	30	1	1.19	2.06	1.83	100%	100%	100%

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科・コース	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
中部北	黒川	機械科	80	2	1.20	0.89	1.13	100%	96.3%	100%
		電子工学科	40	1	0.77	0.85	0.44	87.5%	97.5%	82.5%
		環境技術科	40	1	0.96	1.38	1.67	100%	100%	100%
大崎	古川工	機械科	80	2	1.35	1.08	1.38	100%	100%	100%
		電気電子科	40	1	0.96	0.81	1.46	100%	100%	100%
		化学技術科	40	1	1.26	1.73	1.21	100%	92.5%	100%
		土木情報科	40	1	1.63	1.54	1.21	100%	100%	100%
		建築科	40	1	1.15	1.17	1.29	100%	100%	100%
栗原	−									
登米	登米総合産業	機械科	40	1	0.96	1.08	0.92	97.5%	97.5%	87.5%
		電気科	40	1	0.88	0.56	0.79	95.0%	72.5%	80.0%
		情報技術科	40	1	1.46	0.92	0.65	100%	92.5%	80.0%
石巻	石巻工	機械科	80	2	1.29	1.19	1.15	96.3%	100%	100%
		電気情報科	40	1	0.83	0.67	0.87	90.0%	85.0%	87.5%
		化学技術科	40	1	1.33	0.54	0.69	100%	100%	87.5%
		土木システム科	40	1	0.96	1.71	1.00	100%	100%	100%
		建築科	40	1	1.08	1.13	1.00	100%	100%	97.5%
本吉	気仙沼向洋	機械技術科	40	1	1.07	1.09	1.17	87.5%	100%	100%

２　進路状況



（平成 28 年度学校基本調査（宮城県値）より）

○　卒業者の３割超が大学・専門学校等へ進学している。
○　大学等への進学率は看護科を除いた専門高校の中で最も高い。

３　「県立高校に関する調査」の結果

問９　どのような学科で学びたいか（中学生，中学保護者），学び直したいか（高校生），どのような学科の充実が必要か（高校生保護者）

	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	16.9%	2位	14.5%	2位	18.7%	2位	21.3%	4位
前回調査	7.6%	3位	10.2%	2位	8.0%	3位	10.5%	3位

今回調査：平成２９年９月実施，前回調査：平成２０年１１月実施

＊前回調査は１つ選択であったが，今回調査は３つまで選択可としたため前回と今回を単純比較できるよう，上の表においては今回調査の母集団を実人数として計算した。学科選択肢数は今回が１６学科，前回が１３学科である。

○ 全体として工業に対して関心は高い。
○ 前回調査から順位はほぼ変わらない。（今回の調査では 1 人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。）
○ 高校生，中学生保護者，高校生保護者の順位はほぼ同じであった。

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

岩手県 H28.3	・工業に関する専門教育の充実 ・卒業後の進路を見据えた基幹学科への学科改編
茨城県 H21.7	ものづくりを支える技術・技能の習得を重視した教育課程の編成について検討
神奈川県 H28.1	・工業技術の習得や実践的なものづくり教育を進めるため，企業や大学，職業技術校などとの連携を一層推進 ・社会状況の変化も踏まえながら，学科や教育課程の改編
静岡県	・自動車分野，エネルギー分野，環境分野等の成長産業で活躍できる技術者の育成 ・従来の工業教育と理数教育を融合させた教育内容の充実
島根県 H21.2	・基礎的・基本的な教育に重点 ・インターンシップや専門性を生かした資格取得，各種コンテストへの参加 ・進学対応など，進路希望に応じて教育課程を工夫
山口県 H27.3	・基礎・基本の確実な定着 ・資格取得やものづくりコンテストへの参加推進 ・地域や地元産業界と連携した長期のインターンシップ ・企業・大学・研究機関と連携した教育の推進

（教育活動概要）

北海道 旭川工業高校	商工会議所などと連携し，旭川の地域産業であるパルプ・紙加工品製造業や，木製品製造業において，１か月程度の企業実習を実施し，地域産業が求める地域に根ざした人材育成の取組を実施している。
千葉県 千葉工業高等学校	SPH 事業 ・社会ニーズ，地域ニーズに応じた「課題研究」の実施 ・インターンシップ・企業実習の実施 ・大学企業との連携による高度先進化学技術の学習 ・外国人博士研究員や修士学生等と連携したグローバル教育の充実
愛知県 豊田工業高校	SPH 事業 ・次世代産業に必要な技術・技能，実践的な技術力の育成，グローバルな視点，豊かな創造性を身に付けた技術者の育成
岐阜県 岐阜工業高等学校	・地方創生を具現化するため，「航空宇宙産業」と「情報通信産業」を担う技術者の育成 ・地域経済の基盤整備に資するイノベーションの創出 ・地域連携や海外研修等を通した課題解決能力の育成
熊本県 球磨工業高校	地域の大学や企業，文化財建造物保存技術協会などと連携し，伝統建築技術の修得と継承を目指したカリキュラム開発（「匠」育成プラン）を行うとともに，地域の社寺などの古建築物の調査及び修復などを通じ，次代を担う古建築物復元に係るスペシャリストの育成を行っている。

専門学科（商業）について

○ 各学校とも将来のスペシャリストとして必要な専門の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指している。

○ 多様な選択制を導入しているほか，地域産業との連携による商品開発の実践などを行っている。

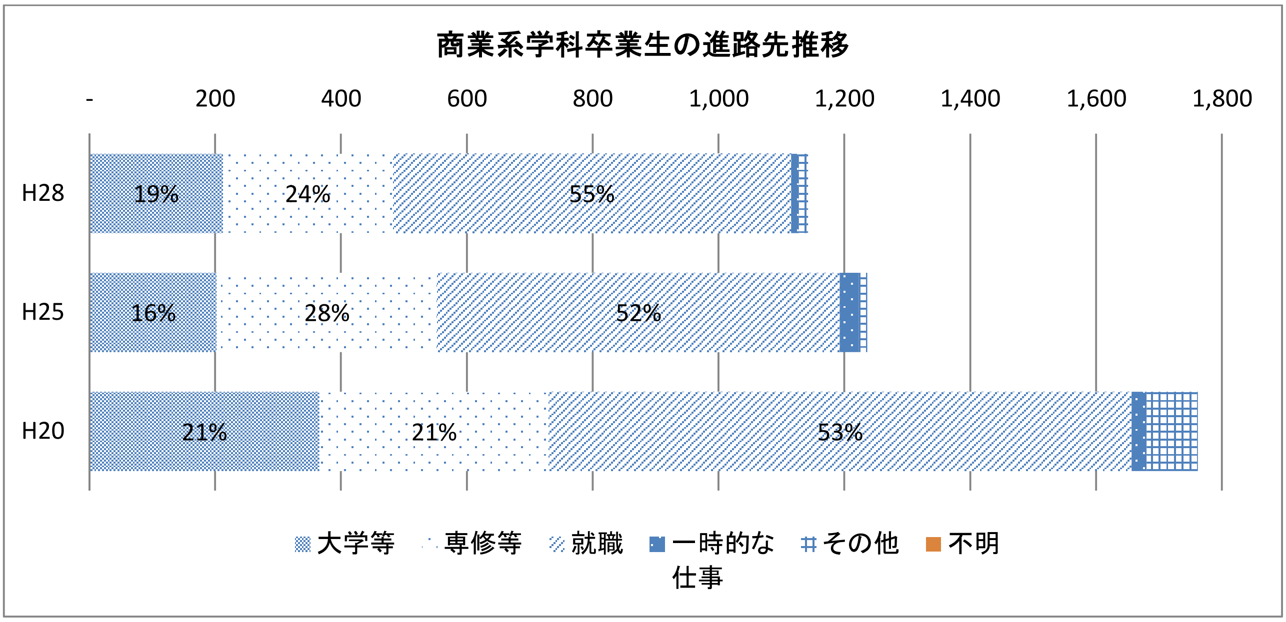
1 マーケティング系学科			4 ビジネス情報系学科		
	流通マネジメントの技術者育成を目指し，流通ビジネスに関する科目の基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。	流通マネジメント科 流通経済科		システムエンジニアプログラマーなどの情報処理技術者の育成を目標として，プログラミング実習をはじめ，様々なアプリケーションソフトについて専門的に学習する。	情報システム科 情報処理科 情報ビジネス科
2 ビジネス経済系学科			5 観光系学科		
	１年次で商業に関する各分野の基礎となる学習を進め，それぞれの希望により，２年次よりビジネス系の専門的な学習を進めることで，高度な知識と技術を学ぶ。	ビジネス科 総合ビジネス科 情報ビジネス科		観光産業やそれに関連する産業・業種に携わる人材を育成するため，県内の観光資源を学習素材として専門的に学習する。	観光科
3 会計系学科					
	簿記・財務会計に関する分野で求められている専門的な知識や技術に適切に対応できる実践力を学ぶ。	OA会計科			

（「平成２９年度宮城県公立高校ガイドブック」より作成）

1　商業に関する学科　　【１０学校　１３学科　定員１，２００人　３０クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科・コース	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
南部	大河原商	流通マネジメント科	80	2	1.13	1.29	1.04	100%	100%	100%
		ＯＡ会計科	40	1	0.92	0.71	1.21	100%	96.3%	100%
		情報システム科	80	2	1.06	0.77	0.48	95.0%	100%	77.5%
中部南	亘理	商業科	40	1	0.82	0.64	1.09	92.5%	92.5%	100%
中部北	市仙台商	商業科	320	8	1.73	1.58	1.49	100%	100%	100%
	塩釜	ビジネス科	80	2	1.30	1.71	2.02	100%	100%	100%
	松島	観光科	80	2	1.46	1.32	1.29	100%	100%	100%
大崎	鹿島台商	商業科	120	3	0.51	0.67	0.51	77.5%	85.9%	78.4%
登米	登米総合産業	商業科	40	1	0.42	0.76	0.75	72.5%	87.5%	85.0%
栗原	一迫商	流通経済科	40	1	0.63	0.58	0.75	77.5%	75.0%	82.5%
		情報処理科	40	1	0.63	0.40	0.50	65.0%	85.0%	75.0%
石巻	石巻商	総合ビジネス科	200	5	0.89	0.97	0.90	95.5%	95.5%	93.5%
本吉	志津川	情報ビジネス科	40	1	0.16	0.37	0.18	35.0%	47.5%	30.0%

２　進路状況



（平成２８年度学校基本調査（宮城県値）より）

○ 卒業者の４割超が大学・専修専門学校等へ進学している。中でも専門学校への進学が多くなっている。

３　「県立高校に関する調査」の結果

問９　どのような学科で学びたいか（中学生・保護者），学び直したいか（高校生），どのような学科の充実が必要か（高校生保護者）

	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	6.6%	9位	10.2%	5位	13.0%	5位	12.1%	9位
前回調査	2.6%	5位	5.2%	4位	3.0%	4位	4.1%	4位

今回調査：平成２９年９月実施，前回調査：平成２０年１１月実施

＊前回調査は１つ選択であったが，今回調査は３つまで選択可としたため前回と今回を単純比較できるよう，上の表においては今回調査の母集団を実人数として計算した。学科選択肢数は今回が１６学科，前回が１３学科である。

○ 中学生，高校生保護者において，前回調査から順位が下がった。（今回の調査では１人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。）
○ 高校生，中学生保護者の順位はほぼ同じであった。

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

岩手県 H28.3	・商業に関する専門教育の充実 ・卒業後の進路を見据えた学科改編
茨城県 H21.7	産業のサービス化，経済のグローバル化，ICTの急速な進展などに対応したビジネスを担う人材を育成
神奈川県 H28.1	・地元の企業や商工業団体，大学などとの連携を一層推進 ・社会状況の変化も踏まえながら，学科や教育課程の改編
静岡県	・商業における４分野（マーケティング，経済，会計，情報）をバランス良く学習する教育の推進 ・グローバル化に対応した教育内容の充実
島根県 H21.2	・基礎的・基本的な教育に重点 ・インターンシップや専門性を生かした資格取得，各種コンテストへの参加 ・進学対応など，進路希望に応じて教育課程を工夫

山口県 H27.3	・基礎・基本の確実な定着 ・産学公との連携 ・地元企業と共同して行う商品開発や販売実習

（教育活動概要）

東京都 荒川商業高校	地域と一体となって実学を基にしたビジネス活動を行い，起業家精神を養い即戦力になる企業スペシャリストの育成を図る
石川県 小松商業高校	簿記や情報処理，旅行業務等の高度な資格取得を活用し，ふるさと小松の情報を国内外に発信する地域の拠点づくりと，深い地域理解に基づく，地域活性化の提案拠点としての機能を充実する。小松商業版ビジネスモデルとして「情報の商品化」をはかり，成果を地域に還元
山梨県 峡南高校	「和紙を活かした商品開発と次世代の身延町を担う人材の成」～西嶋和紙を中心とした伝統的地域産業の再発見とそれを現代に活かす商品開発～
岐阜県 岐阜商業高校	個に応じたより柔軟な科目選択と高度な資格取得をとおして，経済・社会の変化に対応できる［生きる力］の育成を目指した商業高校（SuperBusiness High School）の在り方を研究する。
大阪市 天王寺商業高校	アジアに精通した国際的ビジネススペシャリストの育成と創造的・独創的な提案型ビジネススペシャリストの育成
山口県 防府商業高校	「知的財産立国」の実現を目指し，その社会基盤を創造していくために必要な教育内容及び実践方法を地域や他の専門高校と連携して，「知財力・地域力・創造力」を持つ生徒を育成

専門学科（水産）について

○ 将来のスペシャリストとして必要な専門の基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指している。
○ 産業構造の変化に対して学科や教育課程の改編を行いながら，沿岸部の基幹産業である水産に教育に取り組んでいる。

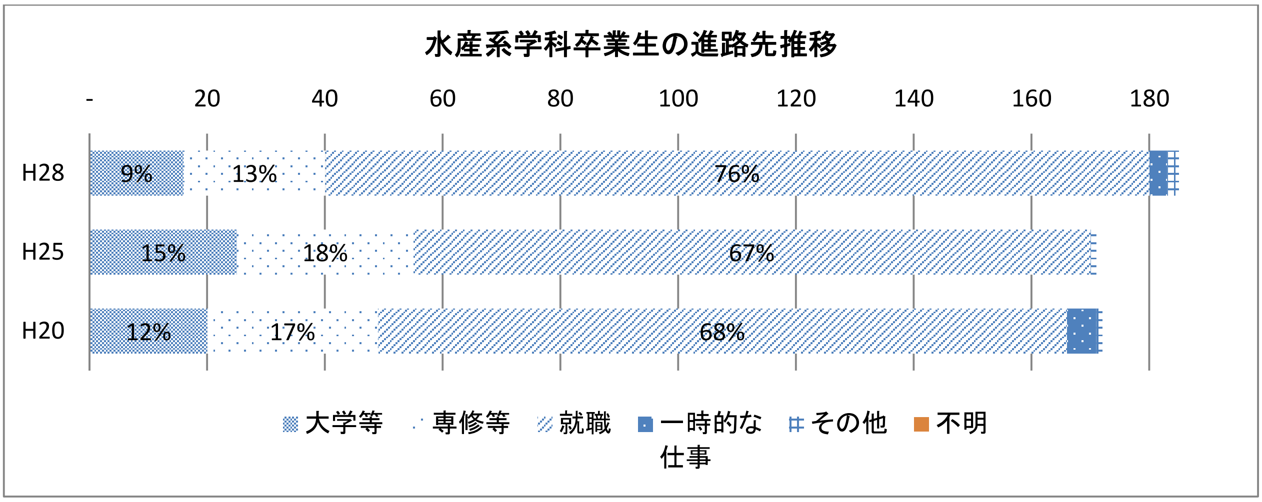
１　海洋総合科　宮城水産高校	
	海洋魚礁，海洋工学，栽培漁業，水産食品の４つの分野を１つにまとめた総合的な学科である。水産に関する学習を幅広く学習をすることができる。また，興味・関心や進路希望により各分野を専門的に学習する。
２　産業経済科　気仙沼向洋高校	
	食品を総合的にとらえ，食品全般に関する製造，栄養，環境，食の安全などについて幅広く学習する。また，食品の製造から食卓に至るまでの流通の仕組みやビジネスなど，食品産業全般について学習する。
３　情報海洋科　気仙沼向洋高校	
	情報通信と海洋漁業との分野を併せ持った学科で，コース選択により電子・情報または，海洋に関して学習する。

（「平成２９年度宮城県公立高校ガイドブック」より作成）

１　水産に関する学科　　　【２学校　３学科　定員２４０人　６クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科・コース	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
石巻	宮城水産	海洋総合科	160	4	0.62	0.86	0.55	79.4%	88.8%	70.7%
本吉	気仙沼向洋	情報海洋科	40	1	0.68	0.92	0.92	80.0%	100%	100%
		産業経済科	40	1	0.96	1.33	1.50	97.5%	100%	100%

２　進路状況



（平成２８年度学校基本調査（宮城県値）より）

○ 卒業者のうち約７割が就職しており，大学や専修・専門学校等への進学者は，全体の３割を下回っている。

３　「県立高校に関する調査」の結果

問９　どのような学科で学びたいか（中学生・保護者），学び直したいか（高校生），どのような学科の充実が必要か（高校生保護者）

	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	2.4%	14 位	3.3%	15 位	0.5%	16 位	2.2%	16 位
前回調査	0.4%	13 位	0.5%	13 位	0.2%	13 位	0.8%	13 位

今回調査：平成２９年９月実施，前回調査：平成２０年１１月実施

＊前回調査は１つ選択であったが，今回調査は３つまで選択可としたため前回と今回を単純比較できるよう，上の表においては今回調査の母集団を実人数として計算した。学科選択肢数は今回が１６学科，前回が１３学科である。

○ 今回，前回ともに順位はほぼ同じである。

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

岩手県 H28.3	・水産に関する専門教育の充実 ・卒業後の進路を見据えた学科改編
茨城県 H21.7	水産業及び海洋関連産業を取り巻く環境の変化に対応するため，専攻科を含めた学科構成や航海実習のあり方を見直す
神奈川県 H28.1	・地元の漁業組合や企業，行政機関，大学，研究機関などとの連携を一層推進 ・社会状況の変化も踏まえながら，学科や教育課程の改編
静岡県	・環境保全に対する意識の向上，漁獲から加工，流通，消費を包括的に捉えた総合的なマネジメント能力の育成 ・新たな産業の創出や地域貢献に繋がる技術の開発
島根県 H21.2	・基礎的・基本的な教育に重点 ・インターンシップや専門性を生かした資格取得，各種コンテストへの参加 ・進学対応など，進路希望に応じて教育課程を工夫
山口県 H27.3	・地域社会や産業界と連携したプロジェクト学習やインターンシップ ・６次産業化の進展に対応するため，農・工・商との連携を強化 ・他県の水産高校等との交流

（教育活動概要）

山形県 加茂水産高校	・マリンスポーツ系，食品系の２類型の設置 ・マリンスポーツ系はマリンスポーツや栽培漁業，操船について学習。特に学校設定科目「マリンスタディ」ではカヌー，スキンダイビング，ウィンドサーフィン，ライフセービング，救急法などを３年間で学習 ・潜水技術検定，小型船舶操縦士，栽培漁業技術検定，冷凍機械保安責任者などの資格取得を目指す。
静岡県 焼津水産高校	・海洋に関する基本的な知識と技術を広く総合的に習得し，海洋への理解と活用法を深め，船舶運航技術や漁業技術の習得を図る。 ・１年次は「水産を幅広く知る」を重点に，基礎的な内容を共通に学ぶ。 ・２年次以降，開発類型・航海類型・機関類型に分かれ，「海洋を守る・利活用する」こと及び「船舶の運航法」を専門的に学習。 ・航海類型・機関類型は，卒業後，専攻科（２年間）への進学が可能。 文部科学省「目指せスペシャリスト」指定校（平成１８年度より）

専門学科（家庭・看護・福祉）について

○ 家庭に関する学科では，将来，生活産業に関わる職に就き，活躍できるよう，衣食住，家族・保育，福祉についての基礎的・基本的な知識と技術を学習する。
○ 看護に関する学科では，将来，看護職として活躍できるよう，５年間を通して，病院などでの実習を多く取り入れ，医療に関する基礎的・専門的な知識と技術を学習する。
○ 福祉に関する学科では，将来，福祉関連の職業に就き活躍できるよう，介護福祉施設での郊外実習を多く取り入れ，介護・福祉に関する専門的知識と技術を学習する。

１ 家政系学科

「生活産業基礎」「課題研究」「フードデザイン」「ファッション造形」「子どもの発達と保育」「生活と福祉」などの専門科目があり,いずれも実験・実習など体験的な学習を多く取り入れ学習する。	家政科

２ 看護系学科

「基礎看護」「看護臨地実習」「人体と看護」「成人看護」「母性看護」「看護情報活用」などの専門科目を学習する。	看護科

３ 福祉系学科

「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」「介護実習」「こころとからだの理解」など主に福祉や介護の専門科目を学習する。	福祉科

（「平成２９年度宮城県公立高校ガイドブック」より作成）

文部科学省ＨＰ「高等学校における看護教育」「高等学校における福祉科教育」などより
○ 看護科
専門高校の一つである高等学校衛生看護科は，看護師養成の制度上，准看護師養成課程として位置付けられ，また，その専攻科は看護師養成課程（２年課程）として位置付けられている。また，平成１４年度からは高等学校の看護に関する学科とその専攻科を合わせた看護師養成課程（５年一貫課程）が新たに創設され，５年間の一貫教育による看護師養成教育が実施されている。全国には看護師等の資格は取得できないが，看護の基礎を学ぶことにより，将来の看護職者としての資質を養うことを目的にした看護に関する学科やコースを設置している高校もある。秋田県，栃木県，長野県，静岡県，滋賀県，島根県，沖縄県には設置されていない。（白石高校の看護科は県立高校で唯一であり，卒業後，さらに専攻科に進学して２年間の勉強を一貫して行い，中学校卒業からの５年間修了時点で正看護師の国家試験の受験資格を得ることができる。）

○ 福祉科
福祉系高等学校等では，修了時に介護福祉士試験の受験資格を得ることができる。福島県，和歌山県，高知県，佐賀県には設置されていない。（登米総合産業高校の福祉科は県立高校で唯一である。）

１　家庭・看護・福祉に関する学科

家庭：【３学校　　３学科　　定員１２０人　　３クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
中部南	名取	家政科	40	1	2.29	1.50	1.71	100%	100%	100%
	亘理	家政科	40	1	1.17	0.90	0.97	100%	95.0%	100%
大崎	松山	家政科	40	1	0.67	0.88	0.92	75.0%	92.5%	87.5%

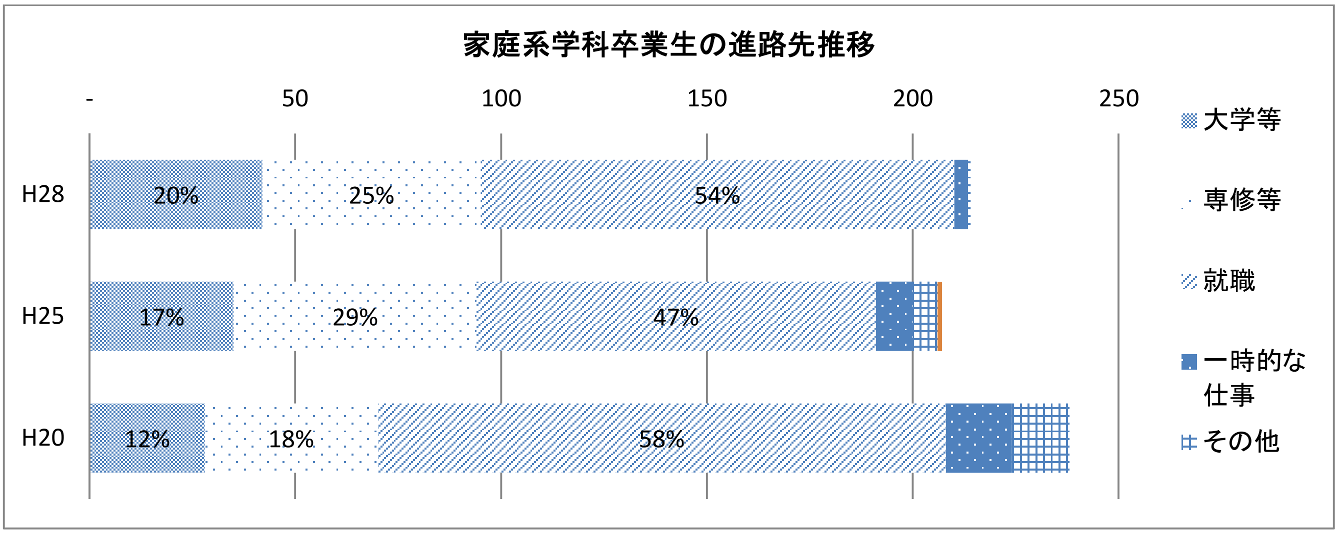
看護：【１学校　　１学科　　定員４０人　　１クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
南部	白石	看護科	40	1	1.54	1.61	1.54	100%	100%	100%

福祉：【１学校　　１学科　　定員４０人　　１クラス】

地区	学校名	３０年度の募集定員等			後期選抜出願倍率			充足率		
		学科	定員	クラス	２７	２８	２９	２７	２８	２９
登米	登米総合産業	福祉科	40	1	0.88	0.72	0.83	85.0%	85.0%	92.5%

２　進路状況



（平成２８年度宮城県学校基本調査（宮城県値）より）

○ 家政科については，従前より卒業者の約６割が就職。大学等への進学率は最も低くなっている。
○ 看護科については，ほぼ１００％が専攻科への進学となっている。
○ 福祉科については，まだ卒業生がでていない。

３　「県立高校に関する調査」の結果

問９　どのような学科で学びたいか（中学生・保護者），学び直したいか（高校生），どのような学科の充実が必要か（高校生保護者）

家政科	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	5.8%	13 位	8.3%	11 位	3.0%	11 位	4.6%	11 位
前回調査	1.2%	9 位	2.6%	8 位	0.3%	12 位	0.9%	12 位

看護科	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	7.9%	7 位	8.7%	8 位	8.9%	7 位	19.3%	5 位
前回調査	1.1%	10 位	2.7%	7 位	1.0%	7 位	2.5%	7 位

福祉科	中学生		高校生		中学生保護者		高校生保護者	
		順位		順位		順位		順位
今回調査	6.0%	11 位	8.6%	9 位	7.4%	8 位	26.3%	2 位
前回調査	1.1%	10 位	2.4%	9 位	1.4%	5 位	3.1%	5 位

今回調査：平成 29 年 9 月実施，前回調査：平成 20 年 11 月実施

＊前回調査は１つ選択であったが，今回調査は３つまで選択可としたため前回と今回を単純比較できるよう，上の表においては今回調査の母集団を実人数として計算した。学科選択肢数は今回が１６学科，前回が１３学科である。

（家庭科）

○ 中学生，高校生において，前回調査から順位が下がった。（今回の調査では 1 人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。）

（看護科）

○ 中学生において，前回調査から順位が上がった。今回の調査では 1 人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。

（福祉科）

○ 高校生保護者において，前回調査から順位が大幅に上がった。今回の調査では 1 人で３つまで選択となっていることやデザイン学科等の選択肢が増えたことも一因か。

４　全国の状況（各団体の高校教育改革に関する計画などより）

岩手県 H28.3	・家庭に関する専門教育の充実 ・卒業後の進路を見据えた学科改編
茨城県 H21.7	（家庭） ・大学などでの学習・研究との接続を視野に入れながら，教育，保育，発達と心理，健康と生活など人間科学の基礎を学ぶ学科への改編を検討 ・ライフスタイルの多様化や食育の推進などの社会のニーズに対応した教育内容の充実 （看護） 教育環境の維持に努め，５年一貫の看護師養成教育の充実 （福祉） 法改正に伴う介護福祉士養成課程の変更に対応した教育内容の充実
神奈川県 H28.1	（家庭） 地域のニーズ等に応じた人材を育成 （福祉） ・社会福祉施設をはじめ社会福祉協議会や行政機関，大学や専門学校などとの連携を一層推進 ・社会状況の変化も踏まえながら，学科や教育課程の改編
静岡県	（福祉） ・関連施設や他の養成機関との連携 ・介護，医療分野との連携 ・大学などとの接続
島根県 H21.2	・基礎的・基本的な教育に重点 ・インターンシップや専門性を生かした資格取得，各種コンテストへの参加 ・進学対応など，進路希望に応じて教育課程を工夫
山口県 H27.3	（家庭） ・地域産業との連携 ・幅広い資格取得や各種コンテストへの参加 （看護） ・基礎・基本の重視 ・医療職，福祉職等の社会人講師の活用 （福祉） ・福祉専攻科の設置 ・大学や専門学校等との連携，地域の社会福祉団体等との相互交流

（教育活動概要）

青森県 百石高等学校	·「食」のスペシャリストの育成を目指し，専門分野に関する幅広い知識と技術の習得·資格取得，料理コンテストへの応募 ·研究機関の専門機関と連携し，地元産品を使用した加工実習や廃棄物の再利用等 ·オードブル調理やサービス等の地域との連携や地域への貢献
岐阜県 大垣桜高校	・ファッションに関する感性・技術を磨き，将来はファッション業界での活躍を目指す。 ・ファッションコンテスト，デザインコンテストに多数参加 ・フェアトレード講習会，フェアトレードファッション等，環境教育・消費者教育にも積極的に取り組んでいる。
岡山県 岡山南高校	・生活産業に関する基礎・基本の定着を図り，衣・食・住・ヒューマンサービス分野の基礎・基本を幅広く学習する。 ・「リビングデザイン」「栄養」「児童文化」「和服製作」「デザイン基礎」などの選択科目により，専門性を深めることが可能。
広島県 総合技術高等学校	・食と食生活関連産業に関する基礎基本及び専門的な知識と技術が習得できるような学習内容となっている。 ・調理師免許が取得できるように教育課程が編成されている。 ・学科の枠を超えてホームルームが編成されており，他学科の専門科目を選択して履修することができる。 ・２年次の学校設定科目「インターンシップ」及び３年次の学校設定科目「産業総合実習」において，すべての生徒が体験的活動を経験することができる。
愛媛県 小松高校	・人間の一生を生活の核ととらえ，ライフステージにおける生活課題について専門的に学ぶことができる。 ・校内外の体験学習や外部講師の活用を積極的に実施している。
福岡県 香椎高校	・個性あふれる感覚や豊かな創造力に富んだファッションのスペシャリストを育成する。 ・グローバルに活躍する基礎となる語学力を育む英語教育の充実 ・可能性を広げるワールドワイドな鋭い感性を育む海外研修 ・唯一無二のデザインを生み出す創造力を育むファッションイベント企画・運営実習